

学会通信(二〇〇九年四月～二〇〇九年一月)

◎学会活動

現代中国学会主催講演会

一〇月二十四日「新時期の中国現代文学研究」楊義氏(中国社会科学院文学研究所研究員)

◎学会員活動

河辺一郎「平和を学ぶ人のために」(共著、世界思想社、二〇〇九年七月)、「新・平和学の現在」(共著、法律文化社、二〇〇九年九月)、「日本ナショナリズムと外交」(論文、「現代思想」二〇〇九年一〇月号)黄英哲「黄俊傑著『台湾意識と台湾文化』台湾におけるアイデンティティーの歴史の変遷」(書評、「中国研究月報」第六三巻第六号、二〇〇九年六月)、「跨界者」陶晶孫一論「淡水河心中」(学会発表、二〇〇九年九月一日)、「於台湾大学台湾研究所」、「戦後日本の中国現代文学研究」(學術講演、「許寿裳与戦後台湾の文化伝訳」二九四六～一九四八)、二〇〇九年一月一日、於台湾大学中国文化系)高明潔「中国における公民権意識の台頭と社会改革の可能性に関する試み——法学三博士」と「打假英雄」の事例を通して」(愛知大学国際問題研究所紀要)第一三四

号、二〇〇九年九月)

砂山幸雄「新中国の六〇年」(共著、日本現代中国学会編、蒼蒼社、二〇〇九年九月)、「思想解放」と改革開放」(論文、「現代中国」第八三号、二〇〇九年九月)、「胡平著、石塚迅訳・解説『言論の自由と中国の民主』」(書評、「東方」二〇〇九年一〇月号)

馬場毅「近代中国華北農村の水利組織和村落宗教圏問題」(報告、中国社会科学院近代史研究所・貴州師範大学主催「近代中国の社会活動、社会控制与文化伝播」第三回中国近代社会科学史国際學術研討会、二〇〇九年八月二八日、於貴州師範大学)、「中国歴史共同研究に見られる日中の歴史観の問題——日中戦争期を中心に」(ICCS現代中国学講座・応用編、孔子学院講座、二〇〇九年一〇月二三日、於愛知大学車道校舎)松岡正子「羌族、川西藏族、嘉絨藏族、普米族、納西族的『祭山』—祭山の系譜」(報告、国際人類学民族学聯合会第一六回大会、二〇〇九年七月二四日、於昆明)、「中国汶川地震後の民族地区の復興状況」(報告、災害対応研究会、二〇〇九年一〇月二三日、於大阪)、「中国の文化—春節と年画」(二〇〇九年度豊橋市民大学トラム愛知大学連携講座「中国アラカルト」二〇〇九年一〇月三日、於愛知大学豊橋校舎)

中国21 Vol. 33 予告(10年7月刊予定)

特集◎留学という文化(仮題)

改革開放三〇年は、中国から海外へ留学生の波が高まりつつ押し寄せた三〇年でもあった。中国教育部の統計によれば公費、私費あわせてその数一四〇万人にも及ぶ。そのうち帰国した者は四〇万人。彼らが今日、中国の各分野で果たしている役割の大きさはいうまでもない。しかし、なお海外にとどまる者が、それぞれの国でユニークな体験と役割を持っていることもまた無視できない現実である。清末以来、留学が近代化と不可分ともいうべき関係にあった中国において、この三〇年間の留学文化の再興は中国に何をもたらしたのか。また留学生としての彼らの異文化体験はどのような特徴を持っているのだろうか。本特集では、中華人民共和国建国初期の留学生問題にも目を向けながら、中国から日本への留学を軸としてこれらの問題を考察する。

【座談】「留学という生き方」徐一平、李贊東、張季風、陳建軍、向勇、益岡隆志、薛鳴【論説】大塚豊、段羅中、杉村美紀、黒田千晴、坪谷美欧子、奈倉京子、葛文綺、王雪萍、李昱ほか